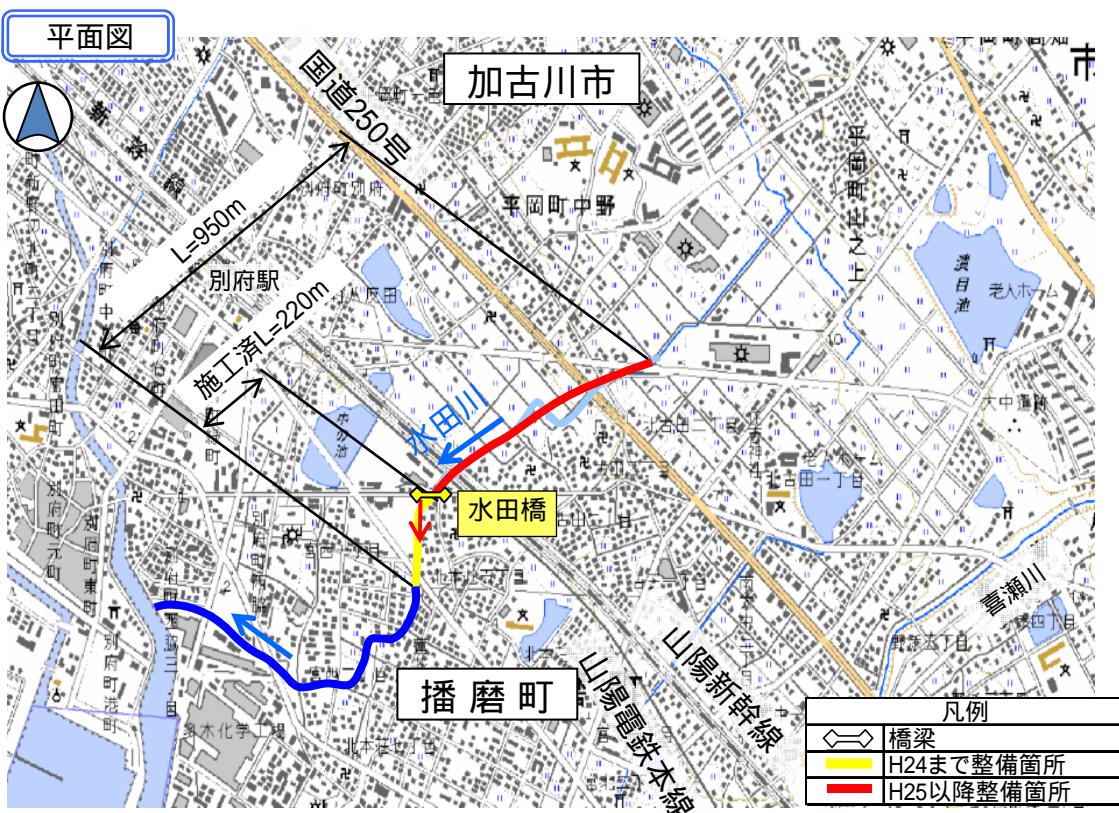
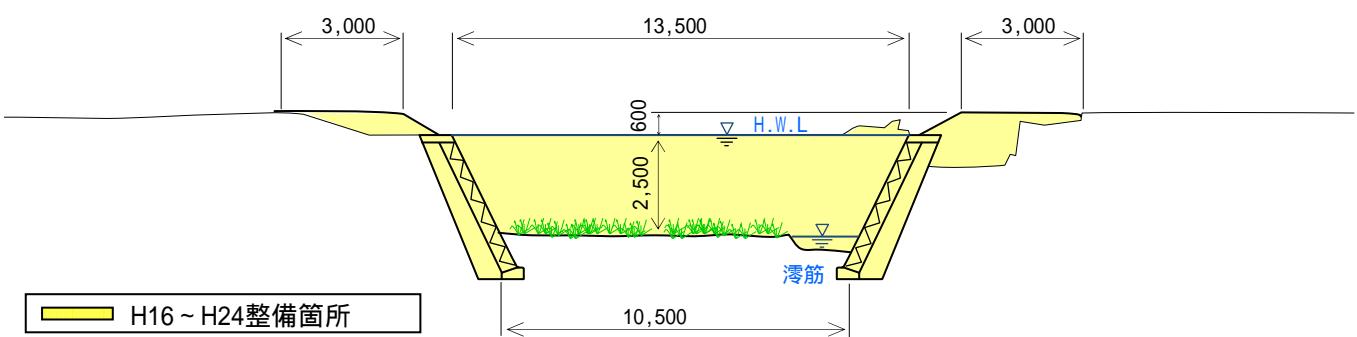


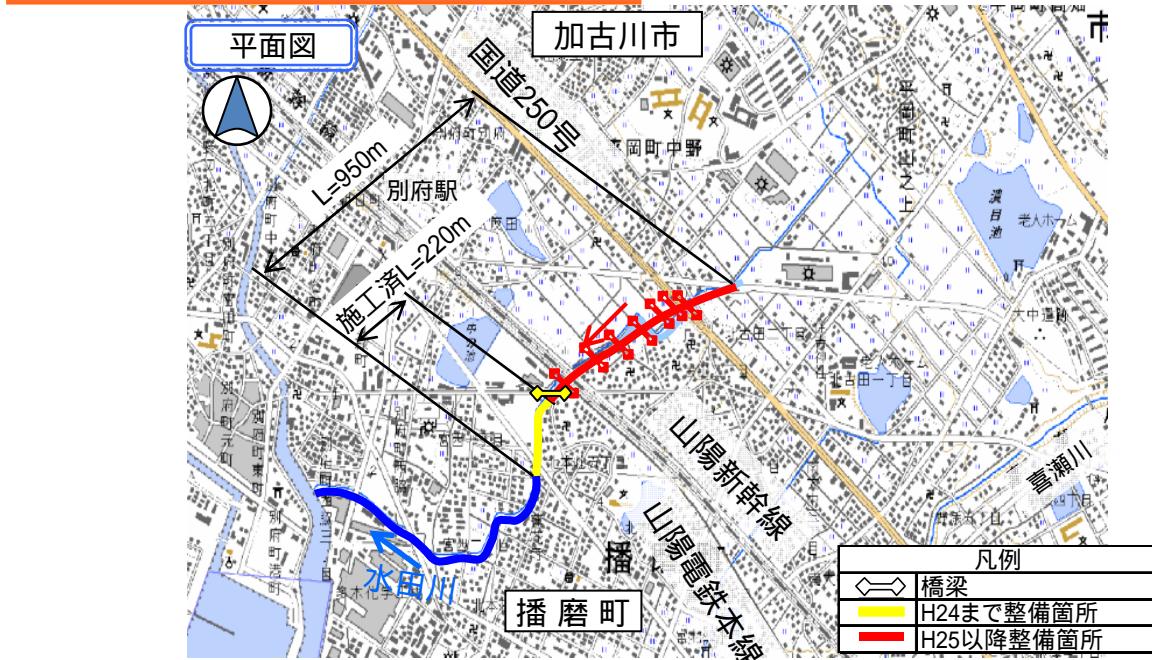
整備状況



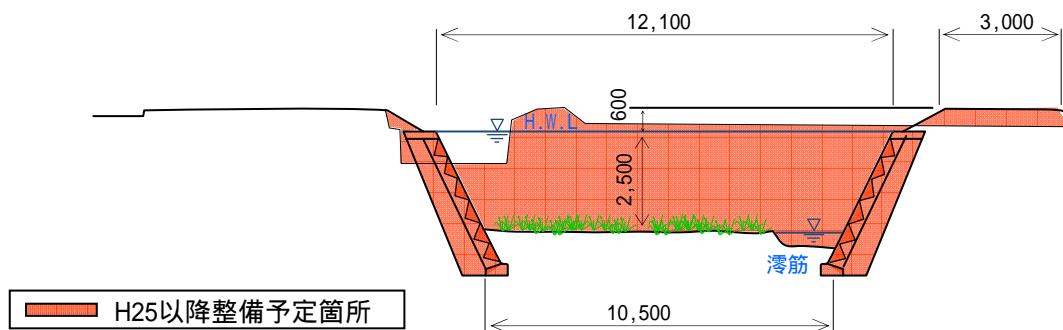
水田橋の下流



未整備区間現況



山陽新幹線上流



1. 実施工程表

		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
山陽電鉄・新幹線付近以外の区間	用地買収	山陽電鉄から下流			新幹線から上流							新幹線から上流						
		山陽電鉄から下流																
	護岸掘削	山陽電鉄から下流						新幹線から上流										
橋梁		道路橋1橋						山陽電鉄から下流										
								道路橋6橋										
												道路橋1橋						
山陽電鉄・新幹線付近	用地買収																	
	新幹線																	
	山陽電鉄							鉄道橋1橋										

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)

+ 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費 - 残存価値」を現在価値化

治水経済調査マニュアル(案) 建設省河川局 平成17年4月

河道 + 流域のモデル化

・流域は250m四方のメッシュに分割



各メッシュの資産、地盤標高の設定

・メッシュごとに、人口、資産(戸数、事業所数、床面積など)、地盤標高を設定



氾濫解析

・整備目標流量をもとに氾濫解析を実施



氾濫区域内資産額の算定

・メッシュデータと氾濫解析結果より被害額を算定



年平均被害軽減期待額の算定

・洪水の生起確率毎の被害額、年平均被害軽減額を算定



費用便益比

・年平均被害軽減額から算定される便益と建設費用を現在価値化して費用便益比を算定

費用便益比(B/C)算出根拠

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
24,594	計画規模の降雨に対して 浸水戸数589戸の解消 浸水面積126haの解消	4,825	4,321	504	5.1

河川整備計画の整備区間を対象

(2) 費用対効果に含まれない効果

国道250号、山陽電鉄等の交通途絶の解消

避難所(播磨西小学校)周辺の浸水被害の解消

河床に擲筋を整備することにより、平常時においても変化のある流れを確保し、多様な生物の生活環境に配慮

河川事業の効果

対象事業：一級河川水田川 広域河川改修事業

(1) 費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用 </div>

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
社会経済活動等の安定	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の解消	国道250号、山陽電鉄等の交通途絶の解消
	医療施設や防災拠点施設など重要施設被害等の解消	避難所(播磨西小学校)周辺の浸水被害の解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	河床に濁筋を整備することにより、平常時においても変化のある流れを確保し、多様な生物の生活環境に配慮
	親水空間の整備	-

印は当該事業効果の主な項目